

国連事務次長・軍縮担当上級代表



中満 泉

なかみつ・いずみ 89年  
国連入りし、難民、人道支  
援や安全保障に従事。著書  
「危機の現場に立つ」。ニ  
ューヨーク市在住。57歳。

日本からニューヨークに戻る機上  
でこの原稿を書いている。今年も日  
本人国後には2週間の隔離をしなけ  
ればならなかった。1カ月ほど  
の日本滞在となった。私は海外に暮  
らして30年ほどにもなるのだが、そ  
れでも羽田離陸直後には何となくセ  
ンチメンタルで「行ってきます」と  
いう気持ちになるのだから不思議な  
ものだ。

種と検査体制完備によって経済復興  
を進める中、コロナ感染拡大と医療  
崩壊の危機が止まらない日本の状  
況。東京五輪開会式に至るまでに露  
呈した、日本社会が抱える差別や偏  
見などの根深い問題。世界各地で大  
きな自然災害をもたらす気候変動。  
地中海沿岸やアメリカ西海岸では前  
例のない熱波と森林火災、ドイツや  
日本などでは豪雨と洪水。そして、  
国連や日本を含む国際社会が20年に  
わたり関与し続けたアフガニスタン  
の、あつけないほど突然の政権崩壊。  
首都カブールがタリバンに陥落し

たのは、日本の終戦記念日だった。  
アフガニスタンは、国連平和維持局  
でアジア・中東部長だった時に本部  
で主管した国の一つでもあり、私も  
幾度となく訪れた国だ。一時期多く  
の時間とエネルギーをかけて取り組  
んだので、大きな衝撃を受けた。国  
際的な平和構築支援の在り方を根本  
的に問い直す出来事だ。

1865年に奴隷制を廃止し、18  
68年の明治維新が日本の封建制度  
に終止符を打ったように、大きな変  
革は世界各地で連動して起こるよう  
に思えてならない。  
コロナパンデミックは残念ながら  
国際的な政治リーダーシップの欠如  
を露呈した。感染症ほど「皆が安全  
でなければ誰も安全でない」ことが

起こってくるのだらう。いや、そう  
せねばなるまい。気候変動への対応  
など、どの国も一國で解決しえない  
人類の存亡をかけた課題には、そう  
することが各国の利益にもかかって  
いるからだ。  
その時を見据えて、祖国日本には  
国内のさまざまな矛盾や課題に真剣  
に向き合い解決してほしい。日本社

し社会に役立て、皆が平穏に幸福に  
暮らせる日本になるのではないか。  
「ジャパン・アズ・ナンバーワン」  
ともてはやされた時代は過ぎ去り、  
SNSで瞬時に情報が伝わる今日、  
日本への国際社会での継続した信頼  
は、国内の課題に向き合うことにも  
かかっていると思う。  
今年も国連事務総長の名代とし  
て、広島・長崎での原爆犠牲者慰霊  
と平和祈念式典に参列した。長崎の  
式典では大島ミチルさん作曲の「千  
羽鶴」の合唱で涙が出た。被爆者  
のお話を聞き、平和のために活動する  
若者たちと会った。

これらの出来事に直接の関連性は  
もろくないのだが、私たちは世界  
史の中で幾度も起こってきた転換期  
にいるのだと思う。社会のさまざま  
なところで進行しつつある変化に、  
従来のやり方では対応できなくなっ  
て、大胆な「リセット」が不可避と  
なった時代を私たちは生きている。  
そして、例えばアメリカ南北戦争が

明らかなる事象はないはずなのに、各  
国はワクチンナショナリズムにいま  
だにとらわれているように見える。  
同時に、これほど短期間でワクチ  
ンができたのは、世界中の科学者た  
ちの国境を越えた協力があつたから  
だという。世界のこれまでの歴史で  
もそうであつたように、危機からの  
回復期には、新しい国際協力の波が

会に存在する根深い差別や偏見、多  
様性の欠如、欠陥が繰り返し指摘さ  
れる入管や外国人技能実習制度など  
の見直し、危機に柔軟に対応できる  
体制の構築など、私たちは今を機会  
と捉えて抜本的な変革を必要として  
いるのではないか。そうしてこそ、  
大きな転換期にある世界の中で、私  
たち一人ひとりが持つ可能性を生か

広島・長崎の筆舌に尽くしがたい  
惨害は、戦後の国際的な軍縮努力の  
原点ともなった。国連総会決議第1  
号にもある核軍縮は、国連のDNA  
の一部でもある。その原典で、歴史に  
学ぶことの重要性を、そして世界を変  
えることができるであろう若者たち  
への期待を改めて感じた夏だった。

## 転換期の世界 日本も変革へ